



生活クラブ風車



夢風News

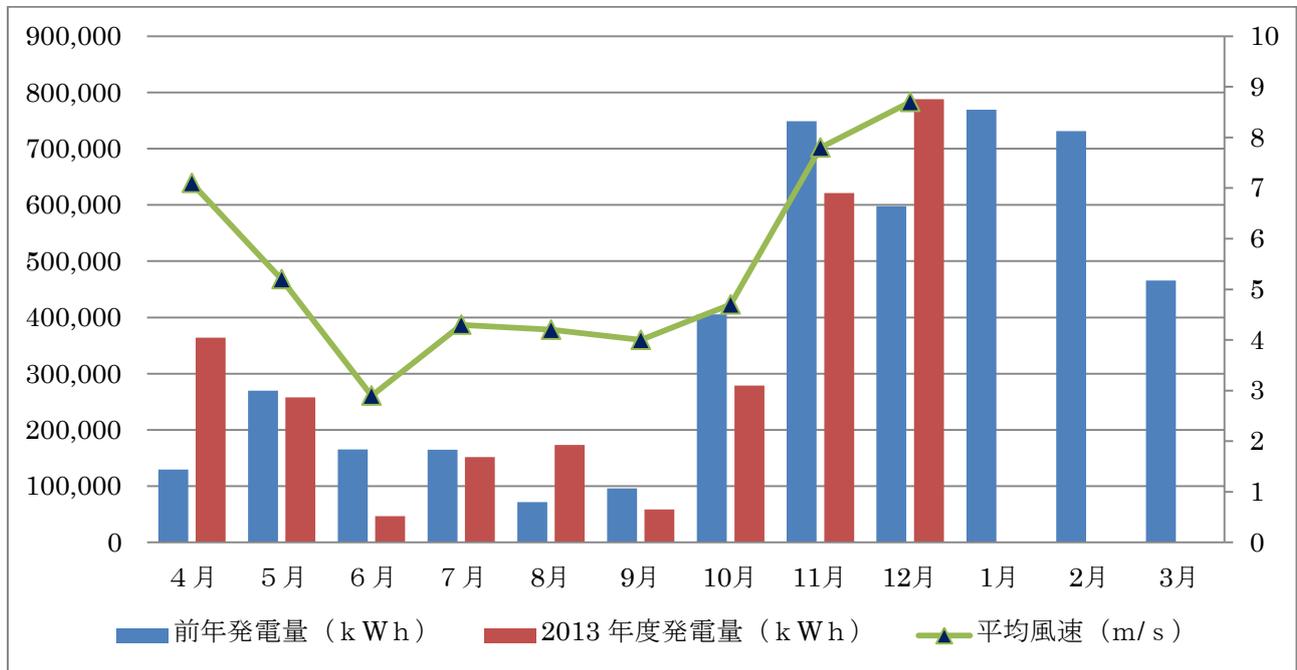
Vol.19

●発行 2014. 1. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 風車の発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	364,062 【281.0%】	7.1	25.4	10月	279,036 【68.9%】	4.7	18.8
5月	257,970 【95.6%】	5.2	17.4	11月	620,896 【82.9%】	7.8	43.3
6月	46,516 【28.1%】	2.9	3.3	12月	788,121 【131.8%】	8.7	53.2
7月	151,543 【92.0%】	4.3	10.2				
8月	173,115 【241.3%】	4.2	11.7				
9月	58,922 【61.3%】	4.0	4.1				



- ・12月は、冬型の気圧配置となり曇りや雪の日が多く、風も強く吹きました。
 - ・夢風は、平均風速 8.7m/s と強い風が吹き、エラーによる停止も一度もなかったことから、これまでで最高となる 788,121 kWh を発電しました。東北電力の要請による「解列」が1回ありました。
- *「解列」とは発電設備等を系統から切り離すこと。電力会社は電力の質（電圧、周波数）を規定範囲内に維持するために管理を行っており、電力会社から発電装置を系統から切り離す＝解列するよう要請されると従わなくてはなりません。

■ たかが1本の風車、されど1本の風車～1本の風車が社会を変える～ ■

一般社団法人グリーンファンド秋田 代表理事 半澤 彰浩（生活クラブ神奈川常務理事）
新年おめでとうございます。

たくさんの関係当事者の方が関わり生活クラブ風車夢風は3年目を迎えます。2013年は、9月にギアボックスを交換しましたが、その後は順調に稼働しています。8月に1周年記念イベントとして、生活クラブ風車「夢風」の下で芹田地区の方々、にかほ市、生活クラブ組合員、約100人の大バーベキュー交流会と、にかほ市スマイルで「にかほ市と生活クラブの連携推進フォーラム」を開催しました。フォーラムでは自然エネルギーの豊かな地域と乏しい都会の地域間連携による持続可能な自然エネルギー社会づくりにむけたディスカッション、「持続可能な自然エネルギー社会づくりにむけた共同宣言」を行い、11月には首都圏4単協とにかほ市の連携推進協議会総会を開催しました。また、にかほ市の特産品「風車の里からセット」の生活クラブ神奈川での取り組みもスタートしました。このように2013年は、今後の新しい社会を創造する記念すべき年でした。



ナセルの上に登って点検する半澤代表

現在の日本社会は人の幸せより経済優先の政策がとられています。景気は回復した、経済成長率も上がった、と言われていますが、多くの人は実感がないのではないのでしょうか？ GNPより格差を生まない経済政策で、人の幸福や公正、人々の意思決定による協治などを基本とした社会への転換が必要と考えます。

経産省は12月に新しい「エネルギー基本計画」原案を発表しました。この中で原発を安定的で運転費用が安く温室効果ガスも出さない「重要なベース電源」と位置づけ、「安全性が確認できた原発は再稼働をすすめる」と明記しています。事故が起きた場合の費用や廃炉や最終処分のコストを含むと原発は高いものです。さらに「エネルギー教育の推進」として学校教育の場にも原発を押し付けようとしています。福島第一原発事故は、未だ何も解決していません。今、重要なのは「原発ゼロ」を決定し、自然エネルギーと省エネルギーを中心とした安全なエネルギーへの転換であり、新しい社会のあり方を創造し、実践していくことだと考えます。

2014年度は、1本の生活クラブ風車「夢風」によるご縁を基に、自然エネルギー社会づくりにむけて、にかほ市と首都圏の生活クラブとの地域間連携による新しい取り組みの具体化をぜひすすめる年にしたいと思います。今年もご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

■ 電力および自然エネルギーに関する連続学習会（1、2回）の開催報告 ■



生活クラブ首都圏4単協の自然エネルギー推進プロジェクトでは、自然エネルギー社会に向けた構想の具体化に向けて、おおぜいの組合員の理解と共感を高めるために連続学習会を開催しています。

第1回は11月15日に富士通総研の高橋洋氏を講師に、消費者から見た電力システム改革と生活クラブへの期待というテーマで、消費者目線に立った電力自由化と課題について学習しました。高橋氏は「青森はリンゴの産地ですが、採れたリンゴ

を青森県内でだけで消費しようとは誰も思わない訳で、首都圏に送って消費する訳です。電力も同じように広域運用をしようという事です。」と現状の課題と改革の目的をこう例えます。



第2回は12月23日に長野県の田中信一郎氏を講師に長野県の環境エネルギー戦略というテーマで、地域主導型の自然エネルギーの推進による地域経済活性化や、住宅の省エネ推進の戦略について学習しました。田中氏は「長野県から光熱費として毎年4000億円が海外に出て行っています。これは、長野県の農林水産業の総生産額が1600億円という事を考えると決して小さな額ではない。これを県内消費に回したら、経済にとってインパクトがある。」と、経済と環境は相反するものではなく、むしろ地域経済のために自然エネルギー、省エネの推進をすすめる

のだといいます。第3回は1月に認定NPO法人環境エネルギー政策研究所の飯田哲也氏を講師に開催しました。第4回を2月に北海道グリーンファンドの鈴木亨氏を迎えて開催します。(3、4回は次号で報告します。)

グリーンファンド秋田・理事から ・ ・ひとことエッセイ ・ ・

みなさま あけましておめでとうございます。



新年早々さかのぼった話で恐縮ですが、年末には翌年のカレンダーを眺めるのがひそやかな楽しみという方も多いのではないのでしょうか。何を祈願するとか何を計画するという大それた考えはないのですが、気持ちを新たに新年を迎えたいとそのときばかりは考えるわけです。

そういえば、子供の頃によく見かけたカレンダーに書店などの名前が入った世界地図のカレンダーがありました。もちろん、現在もあるのでありますがすでに子供たちもそういう年代から遠ざかったため、わが身边ではとんと見かけなくなっていました。さて、この世界地図。私たちが目にするものは真ん中に太平洋があって、日本が中心になっています。当然、世界地図というのはこれが当たり前と思いついていたわけですが、アメリカやヨーロッパではその反対。つまり日本は東の果てに位置しているものが一般的なんだそうです。実際に見てみると目ウロコなのですが、冷静に考えると日本がFar East（東の果て）と言われているのも納得できるなあ、と久しぶりに地図を眺めながら思い至った2014年なのでした。

株式会社市民風力発電 加藤秀生



生活クラブ組合員限定／期間限定／数量限定 生活クラブ風車「夢風」えねばそ販売中 !!

昨秋より、個人向け電力証書・えねばそ(energy green personal)を、開発したエナジーグリーン株式会社と連携して、「夢風」が生み出した電力によるえねばそを生活クラブ組合員限定(首都圏4単協)、期間限定(3月末まで)、数量限定(269,251kWh)で販売中です。環境は今を生きる私たちだけのものではなく、未来の子供たちから託されているものです。一人ひとりの小さな選択をたくさん集めて、大きなエネルギーシフトにつなげていきましょう。また、購入した費用は、自然エネルギー推進のために活用されます。

電気は自分で選ぶ時代です。既に約200名の組合員の方が選んでいます！

■購入方法・手順については、えねばそホームページ <http://www.ene-paso.net/>をご覧ください。

にかほの風だより ～こんなに感動がいっぱい！にかほの観光～ ⑦

命をかけた「南極探検」と豊漁を願う「掛魚（かけよ）まつり」

皆様、新年明けましておめでとうございます。

にかほ市役所観光課の 荒川 です。今回、皆様に冬の「にかほ」をご紹介します。



さて、この左側の写真の人物が誰なのかお分かりでしょうか。実は、日本で初めて南極探検隊を率いた「白瀬 轟（のぶ）」という人物です。そして、その出身地が、なんと我がにかほ市（旧金浦町）です。その偉業を讃え、1991年に「白瀬南極探検隊記念館」がオープンしました。南極をイメージし、設計した特徴的な建物は、世界的建築家・黒川紀章氏の手によるもので、建築物としての評価も高いものがあります。記念館内には探検隊が乗り込んだ木造機帆船「開南丸」の模型があり、船内の実物大の模型もありますが、現在の南極観測船では考えられないような構造、装備に驚くこと



<奇抜な形をした記念館>

間違いありません！（建物向かいの南極広場には原寸大の遊具「開南丸」があります。）また、記念館は白瀬轟、白瀬南極探検隊関連のみならず、その後の白瀬の足跡に続き、南極を目指した歴史関連も展示されています。中でも1968年日本人が初めて南極点に到達した第9次日本南極地域観測隊が実際に使用した大型雪上車「KD605」が展示され、実施に乗り込み、当時の様子を体験することができます。にかほ市では1月28日に白瀬中尉が

南緯80度05分の地点を「大和雪原」と命名したことにちなみ、「白瀬中尉をしのぶ集い」を開催して、市内を雪中行進しています。

金浦山神社で行われる「海上の安全」と「大漁」を祈願する「掛魚まつり」。

このまつりは、一説によると約350年前から続く奇祭として2月4日に、毎年開催しております。地元の神楽を先頭に、約13kgくらいある「鱈」を担いで町内を練り歩き、神社に奉納する姿は圧巻で、昔から変わらず今も脈々と受け継がれています。神社のすぐ前にある勢至（せいし）公園では、地元のおかあさん達が作った「鱈汁」を食べることができ、寒さで冷えた体が癒されます。また、鱈の担ぎ体験もでき、訪れた方々のアトラクションとして親しまれております。



※食通のワンポイント！

今の季節は、やはり「鱈」。皆様もご承知のとおり「鍋」で食べるのが、格別です。しかしながら、私たちは、新鮮なダダミ（雄の白子）を、醤油やポン酢などでそのまま食べるのが通として、この季節が待ち遠しく思っています。新鮮でなければ「生」で食べられないことから、地元でしかこの食べ方はできませんので、皆様ぜひ、電気のふるさと「にかほ市」へお出でいただきたいと思います。